

カワムツを素材とした小学生向け環境教育教材の開発

10526 廣瀬聖
指導教員 市川智史教授

1. はじめに

環境教育においては「人間と自然のかかわりの理解」が重視され、学校教育において生態系に関する学習は、「理科」に位置づけられている。しかし、魚の生息場所である川の生態系という視点からの取り扱いは行っていない。川の生物や生態系を、自然の尊重や人間と自然のかかわりの視点から身近なものと感じるための教材が必要であると考え。そこで本研究では、「カワムツ」を素材として、川の生態系をより親しみやすく子どもたちに伝えられる教材として紙芝居の開発に取り組んだ。

2. 研究方法

教材の形式は紙芝居である。全 12 枚で起承転結（各 3 枚の絵）の構成に基づいて作成した。物語は、川の中の生き物には、それぞれの存在価値（役割）があり、全体として生態系が保たれていることが大切であるというメッセージを伝え得る構成とすることとした。固有種や希少種から生態系を語るのではなく、「ザコ」と呼ばれるくらいにどこでも見られる生物から生態系を考えることによって、子どもたちに生き物の関わりをより身近に感じさせることができると考える。

作成した物語を現職で環境教育に力を入れておられる先生方に読んでいただき、アドバイスをもらい修正した。そして、完成させた物語にそって、絵を描き、紙芝居を作成した。

3. 教材の概要

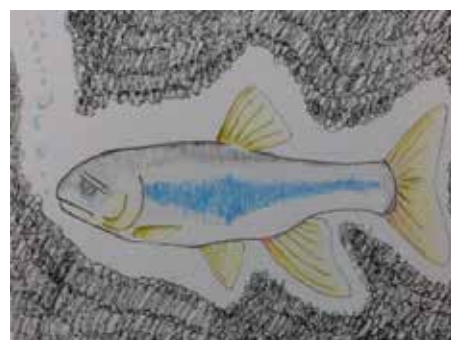
川や湖の中の生態系に興味を持たせること。

川の生態系がかけがえのないものであることに気づかせる。

起	<ul style="list-style-type: none">・ 2人の少年がオイカワを釣りに川に出かける。・ 目的のオイカワではなく、カワムツが釣れる。・ 少年たちは、カワムツに少々悪口を言って、川に投げ捨てる。
承	<ul style="list-style-type: none">・ 少年たちの悪口に傷ついたカワムツは、故郷の川を出ていくことに決め、きれいな川で静かに暮らそうとする。・ しかし、元々棲んでいたヨシノボりに川を追い出される
転	<ul style="list-style-type: none">・ きれいな川はダメだと思ったカワムツは、エサの豊富な川に行くことに決める。・ しかし、自分のなわばりに入られたと思った別のカワムツに追い出されてしまう。
結	<ul style="list-style-type: none">・ カワムツは必死で泳ぐうちに、故郷の川に帰ってきていた。・ カワムツはドジョウに出会い、自分の役割を考え直す。・ ドジョウの言葉で自信を取り戻したカワムツは、幸せに暮らす。

4. 活用の提案

現行の国語の教科書には自然環境に関する教材があるため、その時間の導入などで使用することができる。また、理科の時間では第5学年の「動物と誕生・水の中の小さな生き物」や第6学年の「生物と環境」において、活用できると考えられる。滋賀県においては、第5学年のフローティング・スクール（うみのこ）前後に活用する方法も考えられる。



（図1 作成した教材）